

---

# 異形の国のアリス

明け鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異形の国のアリス

### 【Nコード】

N9828J

### 【作者名】

明け烏

### 【あらすじ】

これは、人類の新たな進化系と呼ばれるオルフェノクという異形の怪物達の存在する世界に生きる、アリスという名の少女の物語。

## プロローグ 『脱出』 (前書き)

登場人物は全て作者オリジナルのアナザーストーリー！  
拙い文章ですが、お楽しみ頂ければ幸いです。

## プロローグ 『脱出』

大規模な研究を行っているために十分なスペースを確保していながら、様々な資料や実験道具が所狭しと並べられ、いかにも手狭な印象を受ける薄暗い実験施設……普段ならば多くの研究員が朝夕の区別なく、常に何かしらの実験を行い、会社に有益なデータを収集しているであろう、その施設はすでに、施設としての機能を果たしてはいなかった。

施設内に無数に走っていたケーブルはあちこち切断され、火花を散らし、壁際に設置されていた巨大なビーカーのような円筒型のポッドも割られており、中に入っていたであろう赤い液体が床一面に広がっている。

全身灰色の、蜘蛛のような奇怪な姿をした化け物が、手にしている……つい先程まで人間であった『それ』を無造作に放り投げ、深紅に染まった右手をこちらに伸ばしながらゆっくりと近づいてくる。

白衣を着た壮年の男は、迫りくる怪人をギリギリまで引き付けた後、手元にあるコントロールパネルを操作し、自分と怪人の間に電磁シールドを展開する。

怪人は強力な電流をその身に食らい、もがき苦しみながらも、己の足止めをした、科学者と思しき白衣の男に襲い掛かるうとしている。

「よし、今のうちだ！ 早く、ベルトとその娘を連れて逃げろ！！」  
白衣の男は目の前にいる眼鏡の青年に、銀色のアタッシュケースと金髪の少女を手渡すと、青年に背を向け、後ろ手に鋼鉄製の分厚い扉を閉めようと手をかける。

「主任！！　しかし・・・・・・・・・・それでは主任が・・・・・・・・・・」

「時間がない！　私に構わず、早く行け！！」

それでも尚迷いを見せている青年を、彼の連れてきている少女こと強引に扉の外に押し出して、そのまま勢いよく扉を閉める。

扉の外からは、青年が何か叫んでいるようだが、よく聞き取れないのは、分厚い壁に阻まれているせいだけではないようだ・・・・・・・・・・男は、白衣に赤黒い染みが広がってゆく自らの左脇腹を眺めつつ、壁に寄り掛かりながら、力無く呟く。

「頼んだぞ・・・・・・・・・・人間の未来を・・・・・・・・・・」

第1話 『 S (前編) 』 (前書き)

中々スムーズに書けない(泣)

第1話 『 S (前編) 』

夏用のブレザーを着た女子高生の右ハイキックが見事にドレッド  
ヘアの男の頭を直撃し、男はそのまま地面に倒れこむ。

周りを見渡せば、ドレッド男の他にも同じように、ガラの悪そう  
な男達が二人ほど仰向けになり、地面に転がされている。

「あ……あの、ありがとうございました！」

ショートカットの少女とは違う制服を着た数人の女子高生が、そ  
れぞれに安堵の表情を浮かべ、頭を下げる。

深々と頭を下げる他校の女子高生達に、気にしないでと手を振り、  
そのまま立ち去ろうとすると。

「あーん！ 有栖<sup>あしす</sup>、カッコイイ〜っ！！」

そう言うや否や、タックルでもかますような凄まじい勢いで、有  
栖と呼ばれた少女と同じ制服を着た女子高生が、背中の辺りまであ  
る黒髪を揺らしながら抱き着いてくる。

「わあ！ ちょ、ちょっと璃子<sup>りし</sup>！ どこ触ってんのよ、こらー！！」  
「んっふっふっふ……この両手から程よくあふれる柔らか  
い巨乳 いや、あの男の子のようだった有栖がよくぞここまで  
育ったものよねー！！」

そう言いつつ、満足げな表情をうかべたまま、璃子と呼ばれた少  
女は有栖の胸や腰、尻などを触ってゆく。

「い・い・か・げんに・・・しなさいっ！！」  
有栖のゲンコツが見事に璃子の脳天を直撃し、頭を抱える璃子。

「いたた・・・ったいなっ！ ちょっとした、女の子同士のスキンシップじゃないのー！」

「璃子のはシャレになってないんだよ！ まったく！！」

「でもいい加減、毎回毎回、危ないことに首突っ込むの止めなさいよ・・・アンタだつて一応、女の子なんだからね」

「一応はないでしょ、一応は！ あたしだつて普通の女の子なんですからね！！」

「ハイキック一撃で大男をノックアウトする女子高生を普通とは言わない！ アンタなんか可愛い顔してるし、スタイルもいいし・・・大人しくすれば、周りの男共が放つとかないんだけどねえ・・・その見境なく暴れ回る悪い癖が直つてくれればねー」

と言いつつ、璃子はわざとらしく、泣き真似をしてみせる。

「・・・こ、これでも最近自重してるんだから・・・それに、困ってる人がいるのに、見て見ぬふりなんて出来ないじゃない！！」

痛い所をつかれ、恥ずかしげに、言い返す有栖。

「だからって、何にでも首を突っ込めばいいってもんじゃないですよ。最近物騒な事件が起きてるって言うのに！」

「？ 物騒な事件って？」

「なんでも、この辺りで行方不明事件が多発してるらしいのよ！ いわゆる神隠しってやつ？」

「神隠し？」

「そう、毎回、事件のおきた現場には、大量の灰と衣服が残されるだけ……って話！ ミステリーよねっ！！」

そう話しながら、自分の話がノツてきた璃子は、次第に事件の顛末は、実は『とある製薬会社の実験』だの、『吸血鬼のような化け物に全身の養分を吸い取られた人達が灰になってしまった』などと、色々と現実味のない話をして一人で盛り上がっている。

「はい、はい、そうだといいいね！ って言うか、璃子はよく毎回、そんな話考えつくね。大体、そんな怪物なんて……」

と、有栖が言いかけたとき、鈍い破碎音と共に、自分達の歩いていた、住宅の壁が破壊され、壊れた壁の向こうから銀色のアタッシュケースと金髪の少女が吹き飛ばされてくる。

第1話 『 S (後編) 』 (前書き)

わかりやすい説明が中々出来ない・・・ (困)

第1話 『 S (後編) 』

住宅街の壁が破壊され、壊れた壁の向こう側から綺麗なプラチナブロンズの12〜3歳位の少女が、銀色のアタツシユケースと一緒に吹き飛ばされてくる。

それと同時に、全身灰色の牛のような姿をした化け物が、少女を追うようにして現れる。

「嘘………？ 本当に怪人が!？」

牛のような姿をした灰色の怪人を追うように、サングラスをかけた黒服の男が現れ、怪人に声をかける。

「おい、ここはもういい………お前はカイザギアの行方を追え!」

「そついや、お前んとこの隊長さんはおっかねえからな、二度もしくじっちゃ後がないってか？ まあいい、ここは言う通りにしてやるよ」

そつ言い残すと怪人は、皮のジャケットを着た大柄な男へと姿を変え、ゆっくりとその場から立ち去っていった。

「さて、お嬢さん達、そのケースを返して頂こうかな、それは我々の持ち物でね………ああ、心配はいらない、その少女とケースを置いていってくれるのならば、このままお帰り頂いて結構ですよ」

いつの間にか目を覚ましたらしい金髪の少女は、有栖に抱き抱えられた状態のまま、黒服の男を見つめている。

そのどこか希薄な表情のせいか分かりづらいが、怯えているのだろう………有栖の身体に彼女の微かな震えが伝わって来る。

「ハッ！ 誰があんたみたいかわかりやすい悪党の言うことなんか聞くもんですか！ 璃子！ 早くこの女の子連れて逃げて！！」

「あ、有栖う……………」

「いいから、早くそのケースをよこせ！ さもないと……………」  
すると、黒服の男は、瞬く間にキノコのような外見をした全身が灰色の、不気味な怪物へと姿を変えてゆく。

「痛い目を見ることになるよお嬢さん」

「……………トードスツールオルフェノクか……………こんな所まで追って来るなんて！」

怪人を追うように現れた白衣姿の青年は、あちこち怪我をしており、かけている眼鏡にもヒビが入っている。

「フツ、この裏切り物め！ いい加減観念するんだな……………スマートブレインを敵に回した貴様等、はもはや我々オルフェノクから逃れることなど出来はしないのだ！！」 怪しげな毒性のあるキノコのような外見をした……………白衣の青年が、トードスツールオルフェノクと呼んでいた怪人は、背後にいる青年に向き直ると、そのまま青年を有栖達のいる方に投げ飛ばす。

「こうなれば面倒事は抜きだ……………貴様等全員を始末してからファイズギアを回収させてもらおうか」

「くそつ……………こうなつたら！！」 白衣の青年は、地面に転がったままの銀色のアタッシュケースを拾い上げ、そこから金属製のベルトと携帯電話を取り出すと、ベルトを腰に巻き、携帯電話に番号を打ち込むと、それをベルトのバックル部分にはめ込む。

すると、ベルトから放たれた『ERROR』という機械音声と共に弾き飛ばされる。

「フン、無駄だ、貴様達矮小な人間には使いこなすことなどできないよ！ そのベルトは我々と共にあってこそだ。さて、覚悟してもらおうか！！」

すると、少女が突然、有栖から離れたかと思うと、ベルトを拾い、それを有栖の腰に巻き付け始めた。

「え、何？ 何なの！？」

と有栖が困惑していると、少女が蚊の鳴くような小さな声で、申し訳なさそうに呟いているのが聞こえてくる。

「ごめんなさい………。だけど今は、他に方法がないの………。」  
そのまま少女は手にした携帯電話に番号を入力し、それをベルトのバックル部分にはめ込んだ。すると、有栖の身体の周りを赤い光の線が取り囲み、その流動するようなエネルギーは、徐々に全身を覆い始め、漆黒のパワードスーツへと変貌を遂げていった。

「………成功………した？」

ベルトを取り付けた少女本人すらも成功すると思っていなかったのか、ほとんど半信半疑の状態だったが、心なしか安堵の表情を浮かべているように見える。「ファイズ………！ フツ、まあいい、年端もいかぬ小娘が変身したところで、どうと言う事はない！」

トードスツールは忌々しそうに、そう吐き捨てつつ、手にした鉄こんを振り回し、襲い掛かってくる。

「………何なの？ これ！？」

ファイズと呼ばれたパワードスーツを纏った有栖は、漆黒の装甲に包まれた自分の両手をただ呆然と見つめていたが、やがて目の前にいる怪人・トードスツールに向き直り、振り下ろされた鉄こんを右に避けると、そのままトードスツールの腹に膝蹴りを叩き込む。

トードスツールはうめき声を上げ、数歩後ずさりしたものの、怒りの雄叫びと共に、再度、有栖に向けて攻撃を放ってくる。

トードスツールの横薙ぎに繰り出した一閃を後ろにかわして距離をとると、ファイズは助走をつけてパンチを放つが、それに合わせるように、トードスツールは、頭の笠の部分から毒の胞子を吐き出し、ファイズの顔目掛けて吹き付ける。

カウンター気味に食らった目眩ましにより、ファイズは敵の姿を見失ってしまう。

その一瞬の隙を突き、背後からトードスツールの攻撃がファイズに向け放たれる。

「危ない！ 後ろ！！」 よろめき、体勢を崩しかけたファイズに少女が声をかける。

「後ろ？ つく・・・！！そこかあっ！！」  
トードスツールはファイズの喉元を目掛け渾身の突きを放つが、ファイズは軽やかなステップでそれをかわし、そのまま回転した勢いで、トードスツールの顔面に裏拳を叩き込み、よろけて体勢の崩れた胴体部目掛けて強烈な右回し蹴りを食らわせた。

「・・・・・・う・・・ベルトにここまでの力がある・・・  
・・・なんて、俺は聞いてな・・・あ、あの野郎・・・」  
その一撃により、トードスツールは手にしていた鉄こんを落とし、小刻みに震えたかと思うと、全身から蒼い炎を放ち、崩れ落ちるように灰になって消滅してしまった。

燃え上がる蒼い炎を背にした漆黒の装甲には光が照り映え、立ち尽くすその威容を照らし出していた。

第1話 『 S (後編) 』 (後書き)

遅筆な作者なので更新が不定期になるかと思いますが、こんな作品でよろしければ、どうかよろしくお願いします！

## 登場人物紹介（前書き）

更新が遅くなりそうなので先に投稿・・・・・・・・

## 登場人物紹介

### 登場人物紹介

・三嶋 みしま 有栖 あしす

本編の主人公。17歳の高校2年生。

少くせのある赤毛気味のショートカットに、くりくりとした大きな瞳が特徴的で、明るく活発な少女。

勉強はあまり得意ではないが、運動神経がよく、格闘能力にも優れている。

・森園 もりぞの 璃子 りこ

有栖の親友でクラスメイト。17歳、高校2年生。

背中の辺りまである黒髪のロングヘア、色白、ファッションモデルのようなスラリとした体型をしている。財閥令嬢、有栖を溺愛している。

・及川 おいかわ 行兎 ゆきと

スマートブレインの研究施設でベルトの開発に携わっていた研究員の一人。

眼鏡、20歳。気の弱い性格で、ここぞと言うときに役に立たない。

・ユーレカ

腰の辺りまであるゆるいウェーブのかかった金髪に蒼い瞳。及川と一緒にスマートブレインの研究施設から逃走。12歳。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9828j/>

---

異形の国のアリス

2010年10月28日07時43分発行